

ノーモア・ヒバクシャ通信 第7号

発行 2013年2月13日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>

ブログ

<http://tks-forum2011.blog.ocn.ne.jp/hibakusha/>

発行者 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085

東京都千代田区六番町15プラザエフ6F
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)

Email hironaga8689@gmail.com

郵便振替口座 00170-5-694752

(口座名義) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産基金

寒い日が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年最初の「通信」をお届けします。

★もくじ

1. 第2回資料センター検討委員会のご報告	P 1
2. 資料の調査・収集、保管関係の進行状況	P 2
3. 被爆体験継承のための企画	P 3
4. 原爆被害・運動関係の調査・研究	P 4
5. 広報～継承ポータル開設に向けて～	P 4
6. 継承の取り組み紹介 (第1回 愛知県 被爆体験聞き取りプロジェクト)	P 5
7. 2012年度会費納入のお願い	P 6

1. 第2回資料センター検討委員会のご報告

2月2日(土)に第2回資料センター検討委員会を開催しました。

今回は全委員が出席して以下の議題(テーマ)で議論を行い、4月6日の第3回検討委員会で資料収集作業グループからの報告も含めて、さらに中身を詰めていくことになりました。

以下に簡単にご報告します。

(第2回検討委員会の議題)

1. 資料センターの構想について
2. 資料の収集について
3. 次回以降の運営とテーマほか

(概要報告)

1. 資料センターの構想について

第1回検討委員会での議論などを受けて資料センター構想の「素描イメージ」が提示され、活発な討議ののち、その内容についておおよそ認識共有化が図られました。

その要点は、①施設の性格は「被爆者の死と生、被爆者のたたかい(運動)の記念館」、

＜被爆者独自の運動を戦後史の中に位置づける＞、②少なくとも「原爆体験記、語り・講話、自分史、聞き書き」「被爆者運動史資料」「原爆を描いた小説・詩歌・絵画・音楽ほか」「原爆被害・原爆体験、実態調査研究資料」の4つの資料群は、会が建設しようとしている資料センターでは欠かすことができない記憶遺産③求められる機能は「(資料の) 収集・保存、研究分析、閲覧サービス」文書館機能、「Webサイトによる発信・展示・アーカイブ」機能、「(資料の) テキスト化・デジタル化、翻訳、編集」スタジオ機能、専門機関等とのネットワーク機能、などが考えられます。

2. 次回の運営とテーマ

資料収集作業グループの報告等を受け、討議を進めます。また、以降の討議テーマを協議します。

2. 資料の調査・収集、保管の進行状況

(1) 被爆者（運動）関連資料の収集・整理作業の現状

①被爆者（運動）の資料収集

日本被団協所蔵の資料を土台に、そこで欠落している資料、初期の運動資料を収集中。これまでのところ、須藤叔彦さん（群馬）をはじめ、亡くなられた嶋岡静男さん（三重）、増岡敏和さん（詩人・埼玉）、藤平典さん（東京）、田川時彦さん（千葉）＝第一次分、園辰之助さん（兵庫）のご遺族から、資料の寄贈をいただいています。

これに、長崎訪問の折、証言の会の廣瀬方人さんより、原爆乙女の会、青年乙女の会発足当初のニュースなど、故・鎌田定夫氏から預かった貴重な資料（コピー）を寄贈いただきました。

②1/19故・杉山秀夫さん（静岡）宅訪問報告

1月19日（土）に、事務局の工藤、栗原が、お孫さんの杉山大さんに案内していただき、浜松市の故・杉山秀夫さん宅を訪問しました。

佐鳴台のお宅には、大さんが整理した貴重な資料が大きなキャビネット1台と本棚にきれいに収められていて、お祖父さんを大切に思う彼の気持ちが伝わってくるようでした。

静岡県原爆被害者の会のニュースが（何号か欠番はあるものの）きちんと整えられていました。また、杉山さんが応召中に爆撃をうけた自宅にあった砲弾の穴のあいた教科書・ノート（測量学？）の束が、これがもし人間の体だったら、というメモとともに残されていました。ご自身の体験を語る際に用いられたものでしょう。

日本被団協の発行していた「被団協連絡」の欠番（原本）のいくつかが見つかったほか、静岡県内の原爆被害調査を収録した被害白書（1～4集）、長友会（長野）の被爆者白書と『生き続けて』1～3集、富山県被団協の調査記録など、各県被団協が早い時期に独自に

行った調査の記録、福田須磨子の詩集『烙印』、『われなお生きてあり』初版などを寄贈していただきました。

他にも、各県被団協の発行した冊子や広島原爆戦災史など、古い貴重な資料、書籍も多く残されており、日本被団協所蔵の資料とつぎ合わせながら、さらにご協力をお願いすることも考えられます。

③当面の作業予定

- a. 日本被団協所蔵の運動資料（段ボール2～30箱？）について、大まかな内容を確認のうえ、昭和女子大の松田先生（および院生ら）の協力をいただきながら、資料整理の方針を立て、目録を作成していきます。
- b. a. の作業を土台にしつつ、各都道府県被団協および関係者に必要な資料（日本被団協関係）の提供をお願いします。合わせて、各都道府県における資料収集・整理の方針を具体化します（「現地主義」を原則としつつ、個別につめていく）。
- c. 資料収集準備室の作業環境がようやく整ってきました。a. と連携しながら、協力を申し出てくださっている資料の専門家・ボランティアの方々の協力を得て、集まりつつある被爆者運動関係資料の整理方針を具体化し、作業をすすめます。

（2）長崎の関係機関への訪問について

長崎原爆資料館をはじめ関係施設や関係者への訪問・面談については前号（第6号）でご報告しましたが、昨年12月に被爆者運動関係の資料を収集すべく長崎被災協と生協関係者で受け継ぐための組織作りの話し合いが始まりました。

3. 被爆体験継承のための企画

被爆70年に向けて被爆の実相と被爆者の想いを受け継ぐ取り組みを、被爆者と非被爆者が一緒に取り組むために、1月18日（金）に日本青年館で2回目の懇談会を行いました。

第2回懇談会で話し合われた主な内容は、

- （1）被爆者と非被爆者が語り合い・学び合う継承の場を全国にたくさんつくりること。
- （2）共通の聞き取り項目を用意すること。

聞き取り項目を考えるために学習懇談会④「被爆70周年の聞き取りのとりくみについて考え合う」を開催することにいたしました。

また、第2回懇談会と学習懇談会④での論議も踏まえて、第3回懇談会では事務局から具体的な取り組み案を提案します。

□第3回核時代を生きる懇談会

日程：3月8日（金）13：30～16：00

場所：プラザエフ5F会議室

東京都千代田区六番町15プラザエフ

（JR四ツ谷駅下車）

内容：被爆70年に向けて、被爆体験の聞き取りについて

どなたでもご参加いただけます。みなさまのご参加をお待ちしています。

4. 原爆被害・運動関係の調査・研究

(1) 学習懇談会③の吉田一人さんの報告をホームページに掲載しました。

前回の報告で概要をお伝えした吉田さんの報告「被爆者運動がめざしたもの—戦争犠牲「受忍」政策を打破するために—」をホームページに掲載しました。ぜひご覧ください。

(2) 学習懇談会④「被爆70年の聞き取りのとりくみについて考え合う」のご案内

日時・場所：2月23日（土）14：00～16：30～ プラザエフ5F会議室

前半 報告：濱谷正晴「1977NGOシンポの一般調査の経験に学ぶ」

後半 討議：被爆70年に向けて いま、何を語り、聞き取るのか

内容：

これまでに実施されてきた多くの被爆者調査のなかでも、全国1万人の被爆者を対象に数千人の調査員が参加した1977年NGO被爆問題シンポジウムの一般調査は、参加した人たちに「調査する者もされる者も変わった」といわれるほどの深い印象を残しました。

いま、被爆70年の聞き取りを具体化するにあたって、その経験を濱谷先生から学びながら、被爆者のみなさんには「このことを聞き残してほしい」、非被爆者のみなさんからは「このことを聞き残しておきたい」、実際に被爆証言の記録に取り組んでいるみなさんからは「このことについてはこういう聞き方がいいのではないか」など、質問内容を一緒に考えてみたいと思います。

5. 広報～継承ポータル開設に向けて～

webサイト上で全国各地の「継承」活動につながりを作り出すためのポータルサイトを開設する準備を進めています。被爆体験を伝えたい被爆者・被爆者団体と、それを受け継ぐ取り組みを進めている個人・団体の情報を、誰でもがアクセスできるデータベース化することで、つながりを作り出していきたいと考えています。

今年度末に仮公開の予定で準備を進めておりますが体制が手薄な状態です。ブログ、HP、継承ポータル企画・運営、学習懇談会などに参加して記事を書いてくださる方、「通信」の体裁や編集をお手伝いいただける方などボランティアでご協力いただける方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡ください。

次回広報ボランティアの打ち合わせ日程

日時：3月9日（土）14：00～

場所：プラザエフ5F会議室

議題：①継承ポータルについて

②ホームページの内容について

③その他

6. 継承の取り組み紹介（第1回 愛知県 被爆体験聞き撮りプロジェクト）

「通信」では、各地で継承に取り組む受け継ぎ手の声、被爆者の声を紹介していきます。第1回目として、愛知県で「被爆体験聞き撮りプロジェクト」に取り組んでいる塚本さんからレポートを寄稿していただきました。

被爆体験聞き撮りプロジェクト（通称ききプロ）は、愛知県の被爆者団体、原水協、青年が協同し、愛知県内に住む被爆者を対象に被爆体験を聞き、その様子を撮影し映像として残し後世に伝えていきます。また、被爆者との対話の中で現在の状況や、抱えている問題を聞き、どのような支援が出来るのかを考えていこうという活動です。

原爆投下から67年が経ち、被爆者の平均年齢は80歳近くになっています。被爆体験を被爆者から直接聞ける最後の世代だと思い、核兵器の持つ恐ろしさ、残酷さ、また世界から核兵器をなくしたいという被爆者の思いを次の世代にも残していけるように活動しています。

被爆体験聞き撮りプロジェクトに参加して、被爆体験を聞いている中で自分自身が一番強く感じたことは今まで自分が知っていた被爆体験には大きく欠けているものがあったという事です。それは67年という時間でした。被爆直後の広島・長崎がどれだけ恐ろしい状況だったのかは知識としてはもっているつもりです。しかし、1年後、2年後そして現在に至るまで、どんな環境で、どんな思いで生きてこられたのかほとんど知りませんでした。

もちろん、誰一人同じ道を歩いてこられたわけではないので、1人1人話は違います。県内に2400人近くの被爆者が生活しています。今までは、なぜ愛知に住んでいるのか特別気にしたことはありませんでした。しかし、被爆者だという事を隠し、人の多いところなら何か仕事があるだろうと名古屋に来られた方、もともと愛知の生まれで軍属として広島に行かれていた方、結婚して引っ越してこられた方、色々な話を聞くうちに

どうして広島・長崎にいたのか、その後どうしたのか、どんな思いで生活してきたのか、そこまで聞いて被爆体験を聞いたと言えるのではないかと思うようになりました。

その方の人生すべてを聞くことは難しいですが、被爆直後の話だけでなく今までどんな思いで生きてきたのかを聞くことで、より深く核兵器の持つ人間性をも破壊してしまう恐ろしさを感じることができるのではないかと思います。被爆者の高齢化は止めることはできません。話をしてくださったかたの中には、外出するのは難しいという事で自宅で話を聞かせてもらったこともあります。聞き撮る自分たちも話してくださる方の気持ちをきちんと受け止めて、次の世代に残していきたいと思っています。

キキプロ事務局次長 塚本大地

【被爆体験聞き取りプロジェクト連絡先】

原水爆禁止愛知県協議会	電話	052-932-3219
	FAX	052-931-2651
	メール	gensuikyo@line.ocn.ne.jp

7. 2012年度会費等納入のお願い

2012年度の会費をお納めいただいているみなさまには、今回振込用紙を同封させていただきました。（すでにお納めいただいているみなさまには振込用紙は入っておりません。）

1月末時点での納付状況で振込用紙を発送いたしましたので、ご送金と前後した場合はお許しください。よろしく願いいたします。

以上